

平成 26 年 7 月 8 日

第 2 回コミュニティ・スクールの推進等に関する調査研究協力者会議資料

山口県におけるコミュニティ・スクールの導入と  
充実に関する取組について

山口県教育委員会

教育次長 小西 哲也

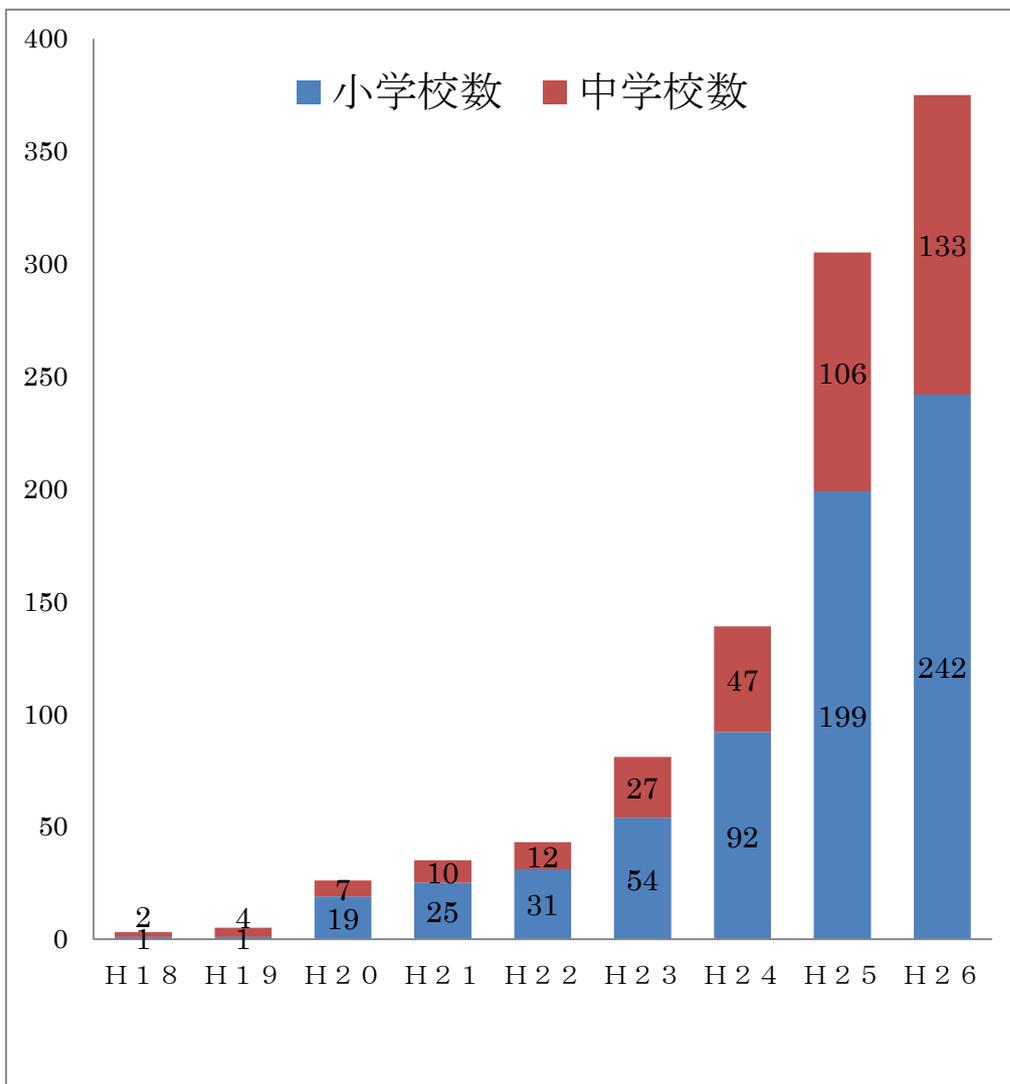
## 目 次

1	山口県のコミュニティ・スクール・・・・・・・・・・	2
	(1) 山口県のコミュニティ・スクールの推移・・・・・・・・	2
2	コミュニティ・スクール導入のねらいと仕掛け・・・・・・・・	3
	(1) コミスク導入のきっかけ・ねらい・・・・・・・・	3
	(2) コミスク導入の仕掛け・・・・・・・・	3
3	コミュニティ・スクール充実に向けた取組の具体・・・・・・・・	5
4	課題解決に向けた今後の取組・・・・・・・・	6
	(1) 各学校への実施状況・意識調査から・・・・・・・・	6
	(2) 今後の取組・・・・・・・・	10
	資料1・・・・・・・・	12

# 1 山口県のコミュニティ・スクール

## (1) 山口県のコミュニティ・スクールの推移

コミュニティ・スクール学校数					H26.7.1現在
年度	小学校	中学校	合計	累計	設置率
H18年度	1	2	3	3	0.6%
H19年度	0	2	2	5	1.1%
H20年度	18	3	21	26	5.5%
H21年度	6	3	9	35	7.4%
H22年度	6	2	8	43	9.1%
H23年度	23	15	38	81	17.2%
H24年度	38	20	58	139	29.5%
H25年度	107	59	166	305	65.6%
H26年度	43	27	70	375	82.1%



## 2 コミュニティ・スクール導入のねらいと仕掛け

### (1) コミスク導入のきっかけ・ねらい

①平成20年度全国学力・学習状況調査の結果から（「平成20年度学力ショック」）

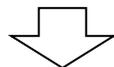
#### 【学校課題】

- ・学力の未定着
- ・学力の二極化
- ・市町間、学校間における学力の格差
- ・学習意欲の低下
- ・児童生徒の社会性の欠如
- ・教職員の取組格差

※これまで各学校任せにしてきたことが、学力の定着状況や学習状況等に関する本県の大きな課題として浮き彫りとなった。

以前から根本的な解決に至らずに残っている課題として

- ・中学校の荒れの繰り返し
- ・小学校における学級王国（学力の学級間格差）
- ・交付税措置された予算取りの市町間格差



#### 【学校課題の解決に向けて】

- 児童生徒一人ひとりの学力保障と保護者や地域への説明
- 教育の機会均等と教育の質の保障（水準の確保）

諸課題の解決に当たり、もはや学校独自の学校経営は限界

個に付くカリキュラム → 学校に付くカリキュラム → 地域に付くカリキュラム

### (2) コミスク導入の仕掛け

①平成20年度教育委員会組織改編（教育事務所の廃止）

#### 【組織改編のねらいと取組】

- 各市町教育委員会の自立性・主体性の発揮（学校と教育委員会の関係性の向上）
  - ・県内19市町への充て指導主事配置
  - ・学校課題の解決を最優先とした学校教育課長の配置
  - ・中学校区での担当指導主事制の導入
- 県教委と市町教委との連携強化（一元化）
  - ・義務教育課地域支援・人事班の設置
    - …学校訪問のべ回数3,000回程度（県内小中学校465校）
  - ・県教委と市教委の合同研修会の開催（月1回）
- 校長会の組織力の強化
  - ・各市町「中心校制度」の導入…適材適所の配置

組織の改編により、山口県教育委員会と各市町教育委員会の距離が縮まり、学校課題を県と市町が共有できるようになった。そこで、県の教育施策を各学校に一定の温度と鮮度を保ちながら届けるという状況を整備するとともに、全市に中心的な役割をもつ学校（中心校）を指定し、学校の横のつながりも一層強化していった。

## ②学校経営の水準作成

### 【水準作成のねらいと取組】

#### ○学校経営の質の向上

- ・経営水準の明確化…「地域とともにある学校づくり」の視点の位置付け【資料1】
- ・コミュニティ・スクール担当教諭の校務分掌への位置付け
- ・コミュニティ・スクールの取組や成果の共有

校長の学校運営の水準にコミスクを位置付け、新任から3年目までの県内各小中学校長にコミスク運営に関する研修会への参加を義務付けた。研修会の一例としては、山口県のコミスク先進校を会場として、取組の成果や課題などの共有、授業参観、運営協議会委員との協議等を行っている。

## ③社会教育との連携強化

### 【連携のねらいと取組】

#### ○幼保小中連携による取組の促進（「地域協育ネット」の構想）【別添資料】

- ・つながる学びや育ち
- ・地域のための学校づくり（縦のつながりの充実）
- ・学校経営水準への位置付け
- ・研修会の充実
  - …コミスク担当者会議、学校関係者と地域関係者との合同研修会  
(H24～参加人数 のべ1,500人)
  - …地域コーディネーター育成講座（H23～H25に399人、H26に176人受講）
  - …熟議の為の出前講座

#### ○山口県の「めざす学校像」の共有

- ・地域に開かれた学校づくり
- ・地域に貢献できる学校づくり
- ・地域の人々の拠り所となる学校づくり

学校支援地域本部等を母体として山口県独自に取り組んでいる「地域協育ネット」の構想とコミスクの導入を関連付け、山口県のめざす学校像を学校関係者と地域関係者が共有し、地域とともにある学校づくりに向けた取組を推進できる人材を育成する為の研修会を平成24年度から行っている。また、学校関係者と地域関係者との合同研修会、地域コーディネーター育成講座や学校運営協議会における熟議の為の出前講座等も社会教育所管課と義務教育課が連携して行うなど、コミスク導入の支援を多面的に行っている。

### 3 コミュニティ・スクール充実に向けた取組の具体

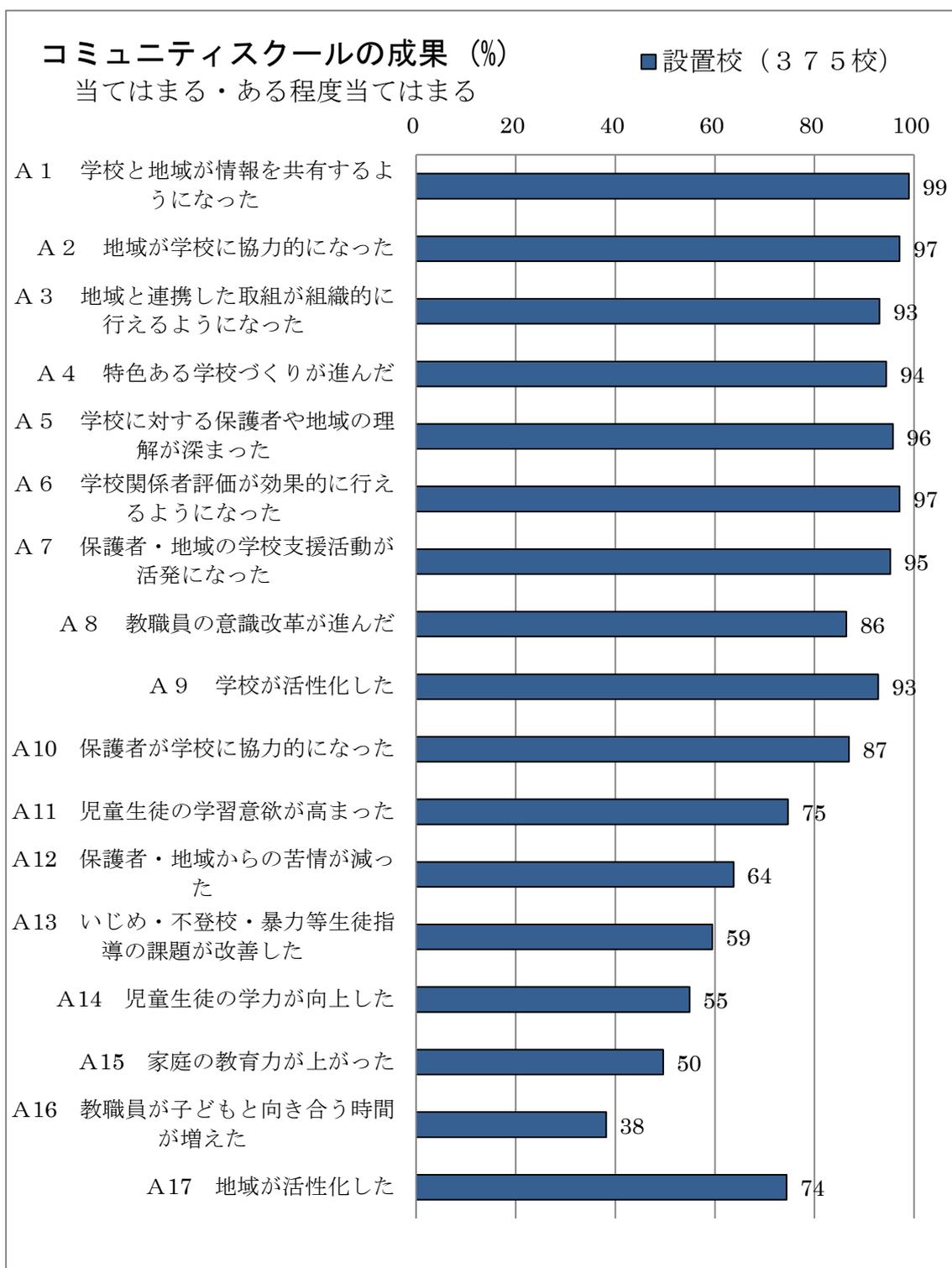
#### ○コミスク充実に向けたこれまでの取組

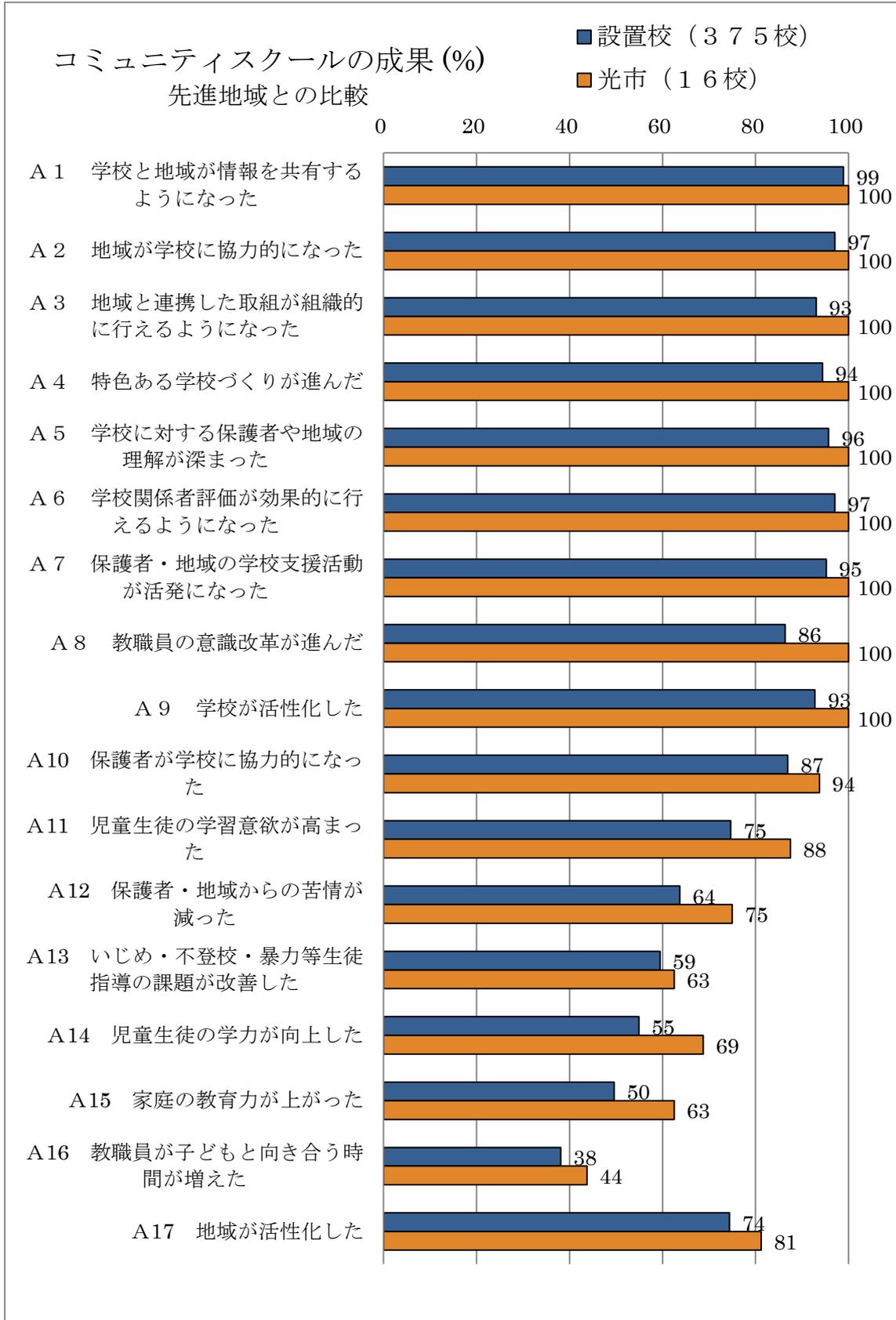
- ① 市町教育長の意識改革
  - ・学校将来像のイメージ化
  - ・社会総がかりで子どもを育てる仕組みづくり
  - ・地域に根づいたカリキュラムに基づく信頼される学校づくり
  - ・地域間格差の認識
  - ・学校の体質改善
  - ・子どもの事実に基づく学校課題の把握
  - ・少子高齢化
  - ・地域コミュニティの衰退
- ② 学校における校長の意識改革
  - ・学校将来像のイメージ化
  - ・地域貢献の在り方
  - ・教職員の意識改革の図り方
  - ・学校間格差の認識
  - ・先進校からの学び
- ③ 教職員の意識改革
  - ・若手教員の人材育成計画へのコミュニティ・スクール取組の位置付け
  - ・若手教員のアイデアを生かせる学校運営協議会の仕組みづくり
  - ・教員養成課程におけるコミュニティ・スクールに関する学び
- ④ 管理職の選考要件
  - ・コミスクによる学校づくりの視点
- ⑤ 地域への貢献
  - ・生涯教育の拠点としての学校
  - ・地域教育力再生の拠点としての学校
  - ・大人が集まり、自ら楽しんだり仲間づくりをしたりする場としての学校

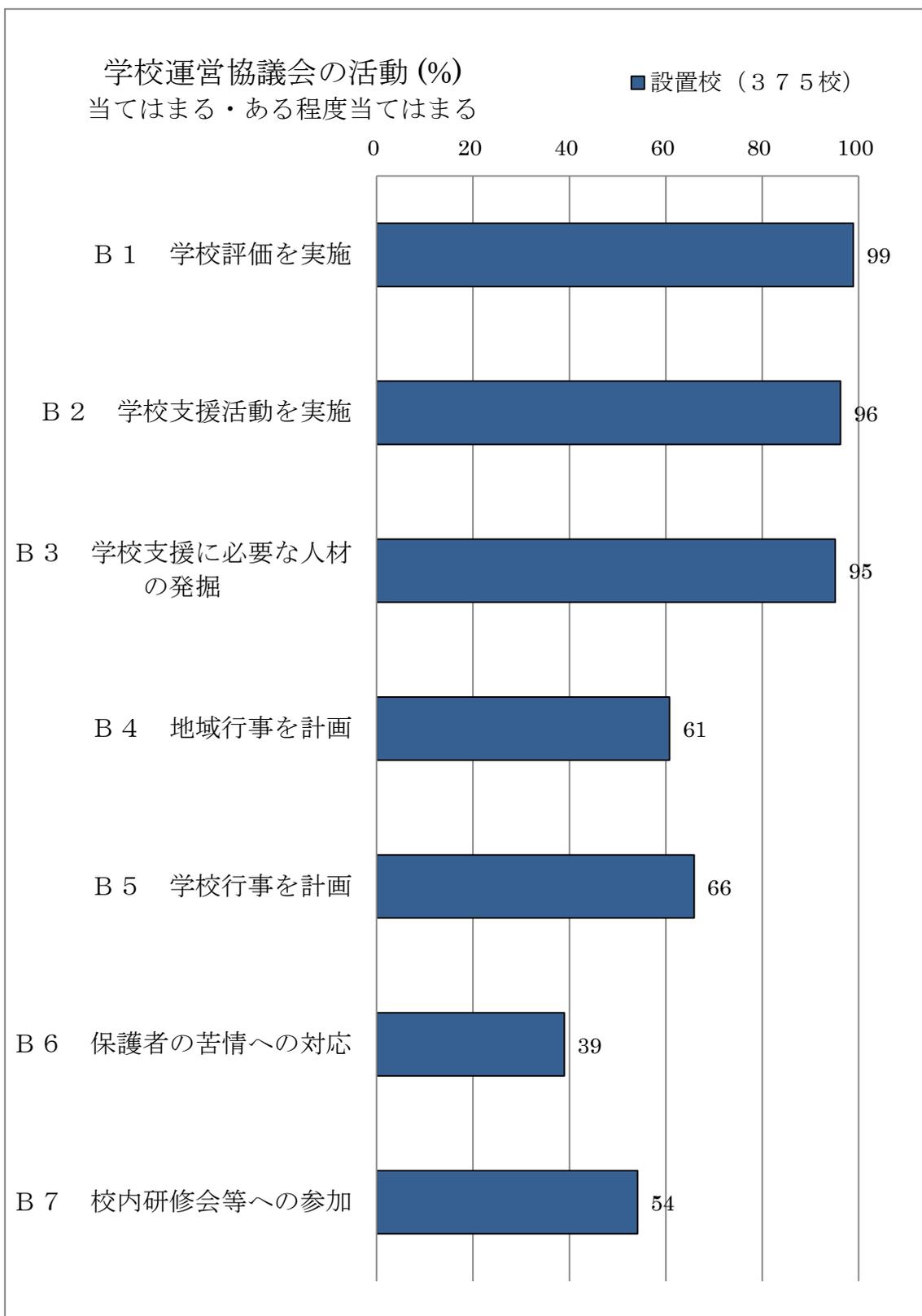
## 4 課題解決に向けた今後の取組

### (1) 各学校への実施状況・意識調査から

①アンケート集計（2014年6月調査 小学校305校、中学校152校 計457校）





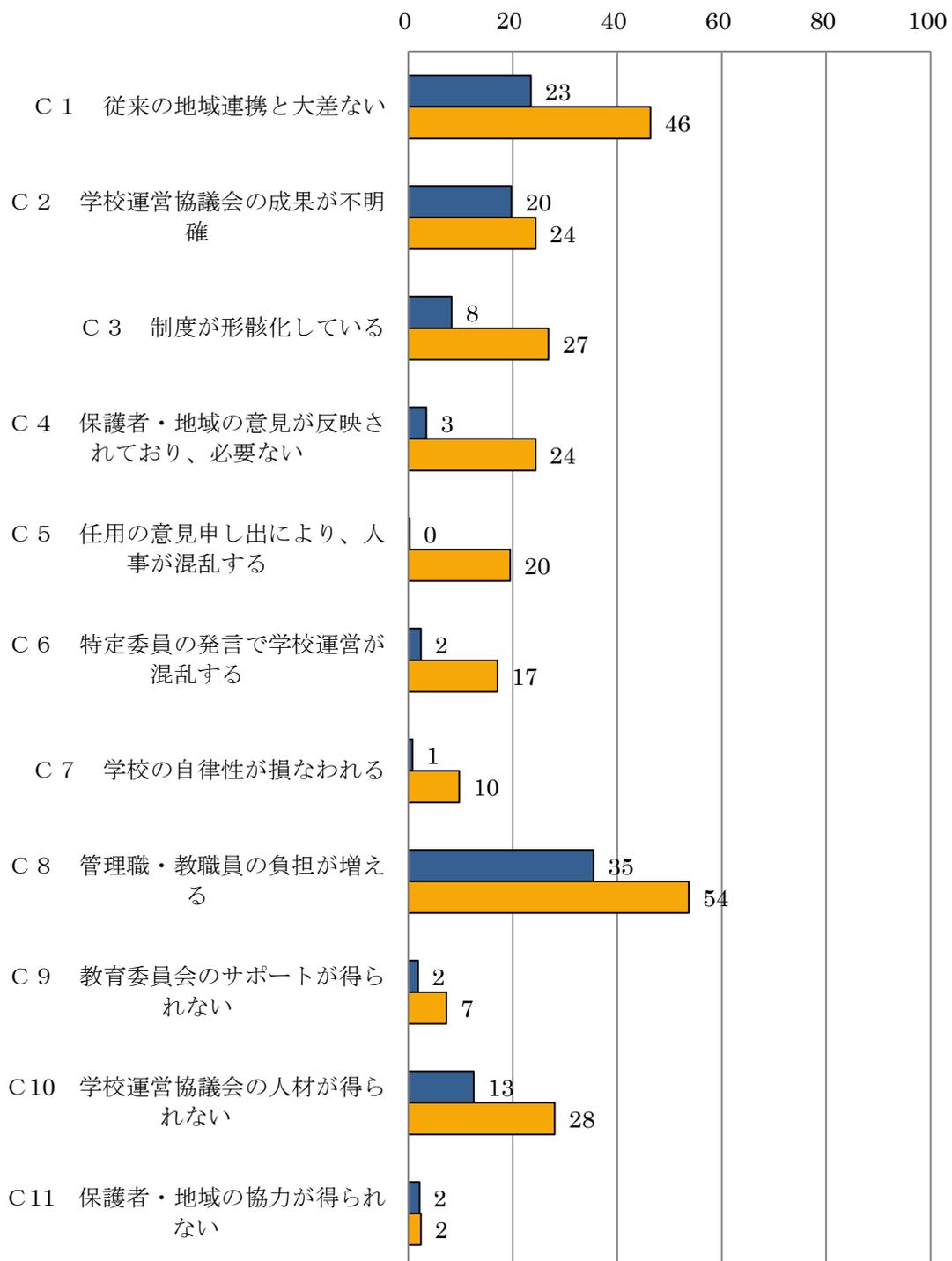


## コミュニティスクールの課題 (%)

当てはまる・ある程度当てはまる

■ 設置校 (375校)

■ 未設置校 (82校)



### ③アンケート結果

#### ア 特徴

- ・コミスクが充実している学校は、地域との相互補完的な関係において成果を実感しており、地域の力を取り込んだ学校づくりを一層進めようとする意識が強い。
- ・コミスクの取組が管理職任せになっている学校では、地域との情報共有や教職員の意識改革が進んでおらず、児童生徒の学力向上や家庭や地域の教育力の向上、教職員が子どもと向き合う時間の確保などを実感するには至っていない。
- ・コミスクに対する理解は進んできており、設置校では成果を感じる教職員が増えてきているが、未設置校では人事面等の不安を抱いているケースも見られる。

#### イ 問題点

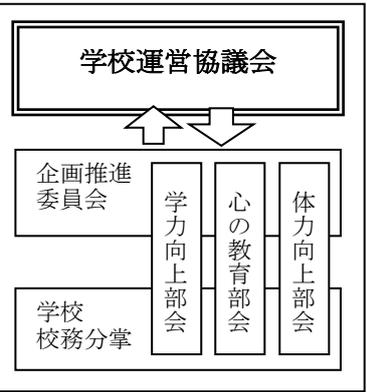
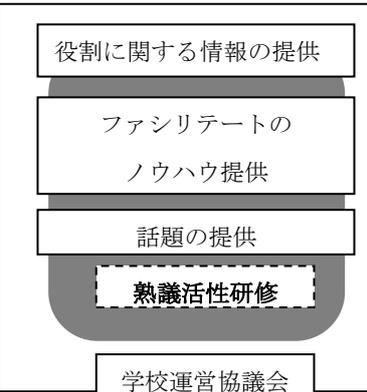
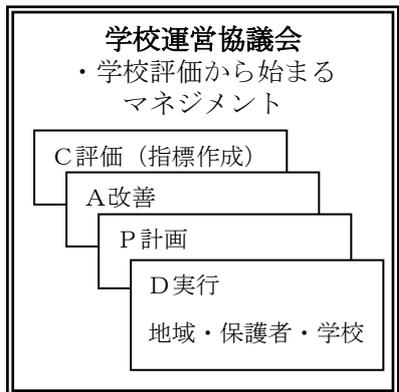
- ・関係形成を重視しているが、共同運営を求めるには至っていない学校がある。
- ・これらの背後には、積極的に学校を開き、地域住民を招き入れることや授業公開を日常的に行い、適宜評価を受けることへの抵抗感がある。

#### ウ 取組の方向性

学校と地域が情報を共有し、連携した取組が行えるようになったという認識が強い。また、学校関係者評価も効果的に行えるようになり、教職員の意識改革も進んできたと考えている学校が増えてきた。一方で、立ち後れている学校もあることから、今後、より本質的な連携のあり方を学校内で共通理解することが必要である。

学校のもつ閉鎖的な状況や認識を打ち破り、地域とともにある学校づくりを進める為に、研修会をさらに充実させるとともに、山口県版プログラムを作成していく。

### (2) 今後の取組（コミュニティ・スクール充実に向けたプログラムの作成）

視点① 組織づくり (部会別プログラム)	視点② 熟議の場づくり (熟議活性プログラム)	視点③ マネジメントと評価指標づくり (マネジメント確立プログラム)
<p>・3層構造による全員参画</p>  <p>※プロジェクト部会と校務分掌を整合させ通常業務との関連を図る。</p>	<p>・熟議の意義や価値の共有</p>  <p>※講座を開き、模擬学校運営協議会を体験できるようにする。</p>	<p>・コミスクのよさの共有</p>  <p>※学校運営協議会のマネジメントサイクルに基づき、よさや課題の共有化を図る。</p>

#### 【来校者の評価指標の設定】

- ・年間来校者数（のべ人数）の目標を設定し、達成に向けた取組を充実させる。  
目標人数は、大・中規模校で児童生徒数の10倍以上を目安とする。

○平成26年度の研修計画

月 日	会 場	対 象	内 容	備 考
6月14日(土)	山口県 セミナーパーク	・コミスク推進協力校区等関係者 ・学校運営協議会委員	第1回コミスク研修会 (兼「第1回学校関係者と地域関係者の合同研修会」) ・組織づくり	学校関係者 約150名 運営協議会 約150名
6月中旬	萩市立 萩東中学校	・新任校長	「フォローアップ研修会 ・マネジメント	1～3年校長 約120名
6月下旬	光市立 浅江中学校	・コミスク推進校関係者	第2回コミスク研修会 (兼「フォローアップ研修会」) ・マネジメント ・評価指標	新任校長 約80名 推進校校長 7名 推進校委員 10名
7月12日(土)	山口県 教育会館	・各学校長 ・コミスク学校運営協議会委員等	第3回コミスク研修会 (兼「学校と地域の連携・協働に係る研修会」) ・模擬熟議	学校関係者 約300名 運営協議会 約200名
8月5日(火)	下関市市民会館		全国コミュニティ・スクール研究大会	
10月11日(土)	山口県 教育会館	・推進協力校区等学校関係者	第4回コミスク研修会 (兼「第2回学校関係者と地域関係者の合同研修会」) ・リアル熟議(デモ) ・具体的な取組事例 ・部会別協議	学校関係者 約150名 運営協議会 約150名
11月中旬	長門市立 深川小学校	・コミスク推進校関係者	第5回コミスク研修会 (兼「フォローアップ研修会」) ・マネジメント ・評価指標	3年目校長 約70名 推進校校長 10名 推進校委員 10名
◆指導主事・社会教育主事研修会(年3回) ・コミュニティ・スクール及び地域協育ネット推進に関する会議				
◆文部科学省研究指定校成果報告会(年1回) ・指導主事、社会教育主事、研究指定校代表者を対象とした成果報告会議				
◆社会教育所管課との連携研修(通年) ・地域住民を対象とした地域コーディネーター育成講座 ・学校運営協議会や学校を対象とした学校運営協議会における熟議の為の出前講座				
◆教育長自主研修会、県教委と市町教委の合同研修会、課長会議、課長フォーラム ・コミュニティ・スクール導入や充実に関する研修				

## 平成26年度 学校運営充実のための視点

項 目		キーワード、参考資料等
I 学 校 経 営	1 学校課題の把握と解決	① 学校課題が明確である。 ② 課題解決への取組体制が整い、進行管理が適切にされている。 客観的なデータ、経営戦略、課題・ビジョンの共有、協働体制、進捗状況の確認、PDCA
	2 組織的な学校運営	① 校務分掌が工夫されている。 ② 協働体制により職員の意識が高まっている。 組織的な取組、個人の力量に頼らない協働・協力体制、学校の教育目標、「山口県教育振興基本計画」「山口県教育推進の手引き(県資料)」
	3 学校評価の充実度	① 学校評価への取組が充実し、学校運営の改善に生かされている。 中間評価、評価結果の公表、保護者・地域の理解・参画、学校の活性化、信頼され魅力ある学校づくり
	4 学校安全・危機管理	① 学校安全・危機管理への取組が適切である。 施設・設備・通学路の安全点検、転落防止策、学校安全計画、危機管理マニュアル、専門家との連携、対応力の強化、「危険予測学習(KYT)資料(県資料)」「防災訓練事例集(県資料)」
	5 管理職の参観等	① 授業参観・校内巡回が毎日、確実に行われている。 頻繁な巡回、職員との積極的な情報共有
	6 綱紀保持	① 綱紀保持の特徴的な取組が行われている。 厳正な服務規律の確保、綱紀保持委員会、職員の意識の高まり、先進的な取組
	7 地域との連携	① <b>地域との連携・協働の方策が整っている。</b> ② <b>地域コーディネーターとの連携が図られている。</b> 連携・協働の方策・計画、地域担当、コミュニティ・スクール、「地域協育ネット」、「地域ぐるみで子どもを育む仕組みづくり実践事例集(県資料)」
II 人 事 管 理	1 事務職員の参画度	① 事務の共同実施が推進され、事務職員の学校運営への参画が進み、事務部長がよく教育活動を支援している。 事務の共同実施の目的、事務の改善、教員の負担軽減、事務職員の参画
	2 人材育成	① 教職員評価・授業観察を生かして、教職員のよさが伸長され、課題解決につながっている。 ② 校内のOJT・人材育成の仕組みが整っている。 定期的な授業観察、人材育成、実効性のある校内研修、積極的なOJT、研修システム、「学校におけるOJT推進の手引き(県教委)」
	3 教職員の健康管理・職場環境の整備	① 教職員の勤務状況が確実に把握されている。 ② メンタルヘルスへの配慮が行われている。 ③ 積極的な業務改善が行われている。 業務時間記録表、時間外業務、メンタルヘルスへの配慮、労働安全衛生管理体制
III 学 力 向 上	1 学習指導要領の趣旨を踏まえた内容の充実	① 各教科等の評価規準の見直しと手引き等の活用が行われている。 ② 指導要領の趣旨に沿った授業改善が進んでいる。 ③ <b>学校運営協議会・保護者・児童生徒に授業計画(シラバス)が提示されている。</b> 評価規準、手引き、言語活動の充実、全校体制による授業改善、シラバス、学力の3つの要素、「新学習指導要領実施上の手引き(県資料)」
	2 学力向上への組織的な取組	① <b>学力向上に向けた具体的な目標が、学校運営協議会に提示されている。</b> ② 学力向上プランにもとづいた全校体制での組織的取組が推進されている。 ③ 調査結果等を踏まえた全校体制による検証・改善サイクルが確立されている。 全国学力・学習状況調査、学力向上プラン、成果の客観化、学力定着状況確認問題、「学力向上に向けた授業改善のために(県資料)」
	3 指導方法の工夫改善	① PDCAサイクルによる授業改善が行われている。 ② 授業研究を核にした校内研修体制が構築されている。 ③ 個に応じたきめ細かな指導の工夫が行われている。 授業改善・観察の視点の共有、日常的な授業評価、分かる・できる・楽しい授業づくり、学習指導の基本資料(4点セット)の活用
	4 学習環境の整備	① 全校体制による学習環境の確立と徹底が行われている。 ② 学校間連携・異校種間連携が推進されている。 教室環境、学習の成果物の掲示、学習規律・学習環境、学習のきまり、系統性
	5 やまぐち学習支援プログラムの活用	① 活用されるための工夫が行われている。 ② 授業での活用が行われている。 ③ 評価問題を活用した学校の課題改善が行われている。 各教室での活用体制、授業での効果的な活用、評価問題、改善状況の把握
	6 学習習慣の確立	① 読書習慣の形成・定着が行われている。 ② 家庭と連携したよりよい学習習慣が確立されている。 ③ 家庭学習の内容と方法の指導が充実している。 読書活動、自主学習への取組、学習支援プログラム、家庭学習状況の評価、授業の工夫改善、「家庭学習の手引き(県資料)」

IV 各重点取組分野	1 山口県の教育目標達成	① ~未来を拓く たくましい「やまぐちっ子」の育成~に取り組んでいる。 ② 教育目標達成の視点「3つの力」「3つの心」を理解している。 ③ <b>学校運営協議会に目標や目標達成の視点を提示している。</b>	高い志、未来に向かって挑戦、知・徳・体の調和、他者との調和、郷土に誇りと愛着、グローバルな視点、社会参画、「学ぶ力、創る力、生き抜く力」「広い心、温かい心、燃える心」、キャリア教育、コミュニケーション能力
	2 体力向上	① 積極的に体力向上が行われている。	体力向上プログラム(各学校)、1校1取組、「体力向上の手引き(県資料)」、体力向上プラン(市町教委)、「子どもたちに経験させたい運動・遊び(県資料)」
	3 健康の保持増進	① 健康の保持増進の取組が積極的に行われ、望ましい生活習慣の形成に努めている	学校保健委員会の充実、「『食育、運動・遊び、読書』90日元気手帳」の活用(小)
	4 特別支援教育	① きめ細かい指導・支援が行われている。	「山口県特別支援教育ビジョン」、理解促進・指導スキル向上、研修の充実、個別の教育支援計画・指導計画、校内コーディネーター、校内支援体制、理解啓発、「支援をつなぐ(県資料)」、「校内支援体制充実のための事例集(県資料)」「通常の学級における特別支援教育の充実のために(県資料)」
	5 心の教育	① 学校の特色や課題に即した心の教育が行われている。	道徳教育・人権教育、積極的な情報発信、「全県共通テーマ(豊かな心を育む教育の推進)」、「心の教育推進の手引き」「道徳資料」、「山口県人権教育推進指針等(県資料)」
V 開発的・予防的な生徒指導	1 9年間を見通した生活・学習規律の指導	① 小中を通した重点取組事項が定められている。 ② 各発達段階における生活・学習指導のポイントが設定されている。	生活・学習規律の重点取組項目、各発達段階における指導のポイント
	2 いじめ防止策への対応	① 「学校いじめ防止基本方針」を家庭や地域に周知している ② 「いじめ対策委員会」を設置し、未然防止、早期発見、早期対応の各取組が組織的に行われている。 ③ ネット・ケータイ問題への教員研修や児童生徒への指導が行われている。	県・市・学校いじめ防止基本方針、組織的ないじめ対策、ネット・ケータイ、外部専門家との連携
	3 規範意識の醸成	① 学校のきまりや約束事項が児童生徒・保護者に周知されている。 ② 児童生徒の、学校のきまりや約束事項を守ろうとする意識が高まっている。	周知・説明、児童生徒の意識、不正やいじめを許さない文化、「子どもたちの規範意識を育むために(県資料)」
	4 児童生徒の主体的な活動	① 主体性な児童会・生徒会活動が行われている。 ② <b>児童会・生徒会活動の成果が学校運営協議会等を通じて地域に発信されている。</b>	学校の活性化、主体性、地域等への働きかけ
	5 [中学校] 部活動指導	① 生徒・保護者に指導方針や休養日の設定等を考慮した活動計画が周知されている。 ② <b>学校運営協議会を通じて、保護者、地域の協力が得られている。</b> ③ より効率的・効果的な指導方法・体制が工夫されている。	学校の活性化、共通理解、指導方針・必要経費、保護者の理解・協力、人間形成、「よりよい生徒指導に向けて～部活動編～(県資料)」、「平成26年度版)望ましい部活動の在り方について(県通知)」、「運動部活動での指導のガイドライン(国資料)」
VI 的確な児童生徒理解	1 教職員の関わりと注意深い観察	① 児童生徒への教職員の関わりが適切である。 ② 児童生徒の日常の行動に対する注意深い観察が行われている。	関わる雰囲気醸成、日常行動の注意深い観察、教職員の意識、日常観察結果の共有
	2 教育相談	① 生活アンケートが毎週、実施されている。 ② きめ細やかな教育相談体制が確立されている。	「Fit(生活アンケート)」、問題の早期解決、教育相談体制、きめ細やかな対応
	3 情報共有と問題発生時への対応	① 情報共有の体制が整っている。 ② 保護者への対応が適切である。	情報共有意識、迅速な解決、保護者への対応、「問題行動等対応マニュアル(県資料)」
	4 不登校の未然防止・個別対応	① 不登校の状況を把握し適切に対応している。 ② 連続欠席2日以内の家庭訪問を確実にしている。 ③ 関係機関との連携が行われている。	出欠状況の共有、家庭訪問の体制づくり、保護者・関係機関との情報共有・連携、未然防止・個別対応、「不登校の未然防止のために～心をつなぐ1・2・3運動(県提示)」
	5 積極的な校種間連携	① 幼保・小・中・高連携への取組が積極的に行われている。 ② 教職員の意識が変化している。 ③ <b>学校運営協議会を通じて保護者・地域に浸透している。</b>	定期的な情報交換、出前授業・体験入学、連携教育推進委員会、地域との連携、積極的な情報発信、「つながる子どもの育ち(県資料)」
VII 加配	1 生徒指導加配教員(該当校のみ)	① 担任との協働や学校内外におけるコーディネート役としての働きが適切である。	目的達成にふさわしい人材、訪問指導、課題解決、積極的な生徒指導
	2 少人数等加配(該当校のみ)	① 少人数等の加配の効果的な運用が行われている。	目的達成にふさわしい人材、全校体制による取組、学力向上・授業改善